

20075

Long guiding sheathを使用した末梢動脈疾患に対する EVT の検討。

【はじめに】 当院では Long guiding sheath を用い末梢動脈疾患における血管内治療を行っている。レントゲン装置から離れることで得られることが出来るが、デバイスの長さを考慮し治療を行わなければならない。【目的】 今回、我々は Long guiding sheath を用い対側アプローチによる浅大腿動脈の血管内治療について検討した。【利点】 術者はレントゲン装置から離れて手技を行なうことが出来るため、GW の操作がより容易となる。また、術者の被曝軽減にもつながる。【欠点】 使用するカテーテルの有効長は 150cm 以上でなければ浅大腿動脈の遠位部まで到達することが出来ず、STENT を留置する際は guiding sheath を浅大腿動脈内に持ち込む必要がある。OTW のカテーテルを使用する場合 GW を 300cm の物に交換または extension wire を必要とする。

【考察&結語】 Long guiding sheath を使用することで術者の被曝低減、GW の操作性は向上するが、STENT の留置の際 guiding sheath を操作する必要がある。guiding sheath を操作する患者によっては痛みを訴える場合があり、治療開始から終了までスムーズな手技が行えるようなシステムを考えていきたい。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号